



CONERGY

発電量 2 メガワット: キング・アブドラ大学 (サウジアラビア)

キング・アブドラ工科大学の屋上は非常にユニークです。サウジアラビアで最大かつ最初の太陽光発電設備が設置されているのです。発電量 2 メガワットの Conergy の太陽光発電所は、中東全体における記録的なプロジェクトです。



自動車世界 6,000 周分の二酸化炭素削減量に相当

屋上設置型の太陽光発電設備が、大学の南北の研究所に設置されています。発電システムの特徴は高品質な構成部品です。9,300 枚を超える高効率の太陽電池モジュールを Conergy Suntop III 架台と Conergy 280 K セントラルパワーコンディショナーに組み合わせています。この太陽光発電所では、11,577 平方メートルの屋上スペースを使用して、年間 3,332 メガワットアワーのクリーンエネルギーを生産し、さらには最大で 3,320 トンの二酸化炭素の削減をしています。これは、自動車世界で約 6,000 周分のカーボンオフセットに相当します。

成功の秘訣

Conergy は、サウジアラビアの主要なソーラーシステムインテグレーターである National Solar Systems (NSS) と提携しました。ドイツ・ハンブルクを拠点とする太陽光発電に精通した Conergy がこの施設を設計、建設、監督、委託業務を担当し、National Solar Systems が設置工事および運営管理を実施しました。NSS の最高経営責任者、Abdulahdi Al-Mureeh 氏は次のように述べています。「クリーンな電力が初めて送電網に送られました。これは、サウジアラビアに住む我々にとって歴史的な出来事です。National Solar Systems と Conergy の優れた連携と相互協力が、今回の成功の秘訣でした。」



石油資源に恵まれた中東の環境への配慮

石油輸出国機構 (OPEC) 最大の石油産出国であり、世界の石油埋蔵量の約 5 分の 1 を占めるサウジアラビアは、太陽光発電を自国のエネルギーの主要な供給元にする計画を立てています。日射レベルが十分にあり、人口密度が非常に低くて広大な領土を擁する同国は、ソーラーエネルギーの展開に理想的な特性を備えています。

Conergy のアジア太平洋および中東部門代表の Marc Lohoff は次のように述べています。「今回の画期的なプロジェクトに参加できて非常に光栄に思います。弊社の太陽光発電の専門知識と最新の技術を通じて、中東地域の再生可能エネルギーの将来をサポートします。今回のプロジェクトは、サウジアラビアのような石油資源に恵まれた国においても、従来の化石燃料の代替エネルギーの発展が新たな緊急課題となっていることを示しています。」

プロジェクトの概要		
日付	2009 年 12 月	
場所	キング・アブドラ工科大学 (サウジアラビア)	
発電量	2 メガワット	
年間生産メガワットアワー	年間 3,332 メガワットアワー	
太陽電池モジュール	9,306 枚 単結晶太陽電池モジュール	
パワーコンディショナー	Conergy 280 K セントラルパワーコンディショナー	
架台	Conergy Suntop III 架台	
発電所の規模	11,577 平方メートル	
二酸化炭素削減量	3,320 トン/年	

